

北極の急速な環境変化を探り、
新しい社会を考える

-IASC（国際北極科学委員会）
の活動と日本の貢献-

情報・システム研究機構
国立極地研究所

榎本浩之

1990年に始まる北極科学の国際的取り組み

東西冷戦終了 北極の科学調査・研究活動の活発化
国際協力の開始：国際北極科学委員会(IASC)設立

北極評議会(1996年)

北極圏に係る共通の課題（特に持続可能な開発、環境保護等）に関し、先住民社会等の関与を得つつ、北極圏8か国間の協力・調和・交流を促進することを目的として、1996年に設立されたハイレベルの政府間協議体（なお、軍事・安全保障事項を扱わないことが明確に確認されている。）（外務省HPより）

IASCは政府間組織である北極評議会のオブザーバーであり、連携を取りながら活動を行なっている。北極における科学の役割は大きい。IASCは、世界の北極科学の中心的な役割を担う。

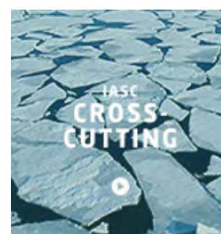
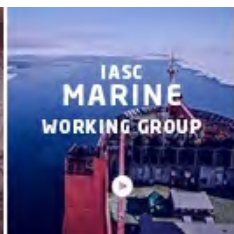


国際北極科学委員会

IASC : International Arctic Science Committee

- ▶ 1990年設立。北極圏に領土を持つ8カ国により設立が呼びかけられた。日本は設立当初(1991)から参加。
- ▶ 北極域に領土を持つ地域と北極研究に従事している国々により、北極域および全球的な科学研究の強力な研究推進体制を目的とした組織。
- ▶ 各国からの分担金によって活動しており、科学的なアドバイスや科学の進展に対して援助も行なっている。また、自然科学だけでなく北極研究に関するすべての分野を網羅している。

2021年現在**23か国**が加盟（北極圏外15か国含む）。
IASC Council: ExComm:米国, ロシア、フィンランド、英国、日本、 Secretariat:ドイツ、アイスランド
5つのワーキンググループ（大気、雪氷、海洋、自分社会、陸域）とクロスカッティンググループ



IASC 2020年北極科学の現状レポート



北極研究の緊急課題

- 北極気候結合システム
- 汚染：起源、集積、（社会）影響
- 観測、予報、予測および予測可能性
- 社会要請に応える北極研究

北極研究と情報のGAPを埋める

- 地域的および期間を埋める。
- 学際的なデータ交換する。
- 国際的のデータ共有する。
- 研究手法とインフラを整備する。
- 北極の自然と人間のシステムの変遷にフォーカスする。

日本の貢献

- 緊急課題** 北極の自然科学と人文社会科学の課題を議論。科学が持続可能な北極を実現する。（科学主導）
- 科学活動** 北極圏外の国の活動として日本を含む中緯度、グローバル影響の研究。高精度、長期の観測や調査の実施（信頼性）。
- 国際協力** 観測基地、研究船、衛星による観測活動を通じた国際モニタリングネットワーク。国際的なデータ共有への参画。国際会議の開催。

IASC加盟から30年、ASSW/IASCへの日本の長年の協力は、国際的な北極研究推進の主要メンバーとして海外の研究コミュニティからの信頼を受けている。2015年富山にてASSW開催(日本学術会議共同主催)（IASC25周年、ICARP III、科学シンポジウム同時開催）。

北極の急速な環境変化を探り、新しい社会を考える。

